

## 終わりは始まり (ただし、始まりを終わりにしてはならない)

心理臨床センター副センター長 武藤 崇

「平成」という年号が、その幕を閉じようとしています。思い起こせば、「平成」という30年間で、日本経済の栄枯盛衰、自然災害の波状発生、科学技術の進歩進化、そして高齢化社会の進行拡大があり、「戦後の昭和」時代と比べても、その社会状況がさらに大きな変貌を遂げました。そして、この30年の間にも、繰り返し「こころの時代」の到来が叫ばれてきました。果たして、そのような時代は到来しつつあるのでしょうか。そして、その到来に（もし、到来しつつあるとして）、心理専門職はどのような寄与をしてきたのでしょうか。

このようなタイミングで、国家資格である公認心理師の1回目の試験が実施され、今まさに、公認心理師が誕生しようとしています。そのような状況において、私たち心理専門職は、新たな年号が付けられた「時代」に、どのような貢献がさらにできるのでしょうか。そのためには、「公認心理師バブル」や「公認心理師狂騒曲」といった表現で揶揄されてもしかたないような、昨今の心理学業界の「熱狂」に巻き込まれながらも、自分の足元を見つめ直し、今までにも増して、その歩みをしっかりと進めることができるような胆力が試され、かつ必要とされているのかもしれませんが。

この『心理臨床科学』も、お陰さまをもちまして、今年度で8巻目の公刊となりました。読者の皆様におかれましては、本巻に掲載されました論文等につきましても忌憚のないご意見をいただけますと幸いに存じます。今後とも、ご教授・ご鞭撻のほど、よろしくご検討のほどお願い申し上げます。

